

大黒様とまつが大根

御歳夜にまつが大根(二股大根)をお供えするのは、大黒様のシンボルとされていることに起因する。言い伝えによるとこうだ。

ある時、大黒様が餅をたらふくごちそうになったが、家に帰る途中で腹痛に遭った。その傍らには、川辺で大根を洗っている女性が。大黒様は女性に、大根を1本くださいと頼んだが、本数を数えて渡されているので、あげることができずにいた。

そんな中、洗っている大根の中にまつが大根が。これを2本とは数えていないだろうと、女性は一方をかきとって大黒様にあげたところ、大黒様はたいそう喜ばれた。

それ以来、大黒様にはまつが大根を供えるようになったそう。



写真提供: 鶴岡食文化創造都市推進協議会

黒豆ごはん

種皮にアントシアニン系の色素を含む大豆の一種“黒豆”を用いる。黒豆は煮豆として正月料理には欠かせないものでもあり、験担ぎとして食される。



ハタハタの田楽

しばらくは数が激減し、禁漁にもなったハタハタ。その間は、韓国からの輸入品を御歳夜で使用したという。雷鳴とどろく海の荒れる日に産卵で押し寄せるため、『雷魚』ともよばれる。



納豆汁

寒さが厳しい山形の冬には、欠くことのできない料理。貴重なタンパク源として、各家庭で食べられている。里芋の茎を干した「芋がら」、わらびやきのこ、とうふに油揚げをいれる。定番のねぎを散らしたり、岩のりを添える家庭も。



黒豆なます

マメに働き暮らせるようにとの願いを込めて食される。大根おろしは、黒豆の色が移って鮮やかなピンクとなる。目でも楽しむことのできる一品。

心も体も懐もぽかぽか

大黒様の御歳夜

おとしや



2



1

1・2 庄内地方の年中行事
“大黒様の御歳夜”のお供え物
と大黒様

3 一般的にお供えされる御膳
左上から 焼豆腐の田楽、
ハタハタの田楽、黒豆なます、
黒豆ごはん、納豆汁、豆炒り



3

農業に関連する年中行事は県内各地で様々行われているが、今回は、庄内地方で年暮れに行われる“大黒様の御歳夜”を紹介したい。

大黒様とは

大黒様は、言わずと知れた七福神のひとり。食物や財福を司る神であり、台所の神とも称される。米俵に乗り、右手に打出の小槌を持ち、左肩に大袋を背負うお馴染みの姿は想像に難くない。

その起源は、ヒンドゥー教のシヴァ神の化身 摩訶迦羅マハーカールとされる。マハーカールは、カーラ黒を意味し、密教の伝来とともに日本にも伝えられた。日本では、出雲の国を治めた大国主命オホヤマトノミコの「大国」と「大黒」が習合して信仰されるようになり、それが正月などのめでたい時節に祀る風習になったという。

御歳夜は年越し

大黒様の御歳夜である12月9日は、大黒様が年を越す日であり、妻を迎える日ともされている。お供えするのは、まっか大根（二股大根）と豆づくしの料理、そしてハタハタの田楽。翌年の豊作を祈願するとともに、豆料理には「マメに」働き暮らせるよう、まっか大根とハタハタには、子孫繁栄の願いが込められているという。

年中行事として、各家庭で受け継がれ行われてきたこの行事。史料をみると、庄内各地で大黒様の御歳夜が行われてきたことがわかる。地域によっては、供え物は「家の相続人（あととり）」には食べさせないが、他家へ縁づくものには与えないならわし』もあり、一家の財を他に散らさなさいといった思いも。福がさずかるとして、この日に俵づくりをすることもあったという。庄内地方では、一年を総括し翌年の福を祈る、大事な日とされている。